

(メッセ海外通信 2012年4→6月号掲載記事)

～下関市と青島市交流の絆～
下関・青島ゆかりの会の開催

下関市総合政策部国際課
(青島市派遣職員)
三浦 万季

下関市は青島市と1979年10月3日に友好都市の盟約を結び、今年で33年を迎えます。この間、下関市と青島市は行政間の繋がりだけでなく、文化・教育・経済・観光の面でも非常に強く結びつき、交流を続けてきました。また、日中国交正常化40周年、また山口県・山東省友好協定締結30周年でもある今年は、下関市と青島市の交流がますます盛んになるチャンスのある年でもあります。

そこで、下関市では、去る4月17日青島市のシャングリラホテルにて、下関市にゆかりのある青島市在住の方々を招待して下関・青島ゆかりの会を開催しました。下関市と青島市との人的ネットワークをさらに強固にし、参加して下さった方々に下関市のファンとして、青島市において下関市をPRしてもらうことを目的として開催したものです。

1979年の友好都市締結の際、通訳をして下さった李布(りふ)さんから挨拶のお言葉をいただき、中尾友昭下関市長が参加者に対して市政報告を行った後、市長を囲んでの交流会を行いました。市長との意見交換、また、参加者同士が名刺交換をするなど交流を深めました。



市政報告を行う中尾友昭下関市長



意見交換の様子

参加された中国人は、下関市立大学で中国語を教えたことのある青島大学の先生、下関市への留学経験がある方、下関市に現地法人を設立された方、下関を始め日本へのツアーを企画・実施する旅行会社の方、行政間交流で下関市に派遣されたことがある方など現在様々な分野で活躍されている方々です。日本人参加者は、下関市出身の方や本社が下関市にある方などです。平日昼間の開催にもかかわらず、大変多くの方々がこの会に駆けつけてくださいました。

ある参加者からは、「青島でこういう会を開催し、これだけの人が集まるのは青島市の友好都市の中でも下関市くらいだろう。下関市が深く青島市と交流を続けてきたからこそ、このように多くの参加者が集まる。下関市以外の都市なら、このような会を行ってもこれだけの参加者を集めることができず、会自体が成り立たないだろう。」とのお話をいただきました。この会を通じて参加者全員が下関市と青島市の強い絆を感じられたようです。

今までも、多くの下関市・青島市の人々が両市の間を往来し、両市の交流が、行政間の活動から民間主体の草の根活動もあわせて様々な面で33年間途切れることなく続いてきたことは事実です。ただ、私は交流の成果というものは実際に目に見える形になるのは難しいだろうと考えていました。しかしながら、総勢103名の出席者が下関市長を囲んで笑顔で交流する姿に、これまでの交流の成果が実際に目に見える形になったことに驚きを感じると同時に、今まで絶えず続けてきた両市の交流が着実に実を結んでいることを実感しました。参加してくださった方々の協力を得て、今後、両市における交流が一層深まっていくという確信を得ることができました。